

葉や樹皮、材などにより香りを持つ木で、かつては樹皮からタンスの防虫剤などに使う樟脳を作っていました。葉をもんで、香りを確認してみましょう。

クスノキは、高さ20～30mになる常緑高木で、温暖な地域では成長が早く大木になりやすい木です。日本の巨木の中で、巨樹をリストアップするとクスノキが大木を占めるのもそのためです。宮崎駿監督のアニメ映画「となりのトトロ」に出てくる巨木も、このクスノキであることを知っている人はそう多くないかもしれません。

本州南部から四国、九州、沖縄の温暖な地に生育する木で、中国南部やインドシナに分布しています。日本の分布状況などから、古い時代に、南方から日本に渡来したともいわれています。神社や公園、庭園、街路樹などとしてよく植えられていますが、島根県内では風当たりの強い場所にうえられた木は、枝が枯れるなど成長が極端に悪くなることがあります。街路樹として植えられているクスノキについて、冬期の北西の季節風との関係から枝振りなどを観察してみるとおもしろいでしょう。

5～6月に、細く伸び出した花序に白い小さな花をつけます。実は10～11月ごろ黒紫色に熟し、キジバトやヒヨドリ、ムクドリなどの餌となります。

葉を裏返して、葉脈の分かれ目を虫めがねなどでのぞいてみると、葉脈が又状になった内側の部分に小さな穴（凹み）があることがわかります。この穴は、肉食性のダニのためのアパートで、植物食の小さなダニを食べてもらい葉を健全に保つためのものではないかと考えられています。サンゴジュにも同じような穴がみられますので、中にひそんでいるダニを観察し、植物のしたたかな戦略と生物の多様性について実感してみるとよいでしょう。



▲ クスノキの葉



▲ クスノキの樹皮